

季節風

スローライフ (その1)

情報広報部副部長 宮本慎一

さまざまな分野で海外依存度が高いわが国において、なかでもエネルギーの確保とともに食糧の自給率を上げることは重要な課題です。世界を席捲したハンバーガーを代表とするファーストフードに対して、最近、食文化のアメリカ化への反動と食の安全ということから、会話とともに地場で取れた食材を中心にした料理をゆっくりと楽しむというスローフードの動きが各地で広がっています。

国道234号線をはさんで、自院の向かい側に北海道立岩見沢農業高等学校の広大な敷地が広がっています。明治4年に黒田清隆が開拓使顧問として招聘したホーレス・ケブロンは北海道開拓指導者養成のため農学校の必要性を強調し、東京に開拓使仮学校が設置され、後に札幌に移り明治9年に札幌農学校と改称されました。この時代に北海道では中等実業学校として、商業、商船、水産などがありましたが、農業については札幌農学校の農芸科のみであったそうです。その札幌農学校が東北帝国大学農科大学に昇格したため、札幌農学校農芸科は廃止される機運となり、中等農業教育機関が本道からその跡を失うというので、新たな

北海道医報購読料年間3,000円。北海道医師会員にあっては会費の中に含まれています。

る農業学校の設置の必要性に迫られました。明治40年4月、北海道で最初の農学校である庁立空知農学校が開校し、現在の北海道立岩見沢農業高等学校になりました。ちなみに初代校長の年俸は千二百円であったと資料にあります。

この空知農学校の卒業生で、原 正市さんという方がいらっしゃいます。彼は北海道帝国大学農学部農業実科に進学し、卒業後は北海道農務部農事改良科に奉職し、全道の農事改良普及事業に大きな貢献を果たしました。昭和54年に日中農業技術交流協会の役員として中国を訪問、その後昭和57年から北海道黒龍江省科学技術交流協会の派遣で黒龍江省にて稲作の技術指導に当たりました。その後も年に幾度となく中国を訪れ、そこに滞在し、献身的に稲作指導をしました。彼が指導した畑苗移植栽培法にて黒龍江省では昭和57年に46万トンであった米の収量が、平成9年には640万トンまで飛躍的に増やすことができたそうです。中国政府は原氏の功績に対し平成8年に外国の個人としては初めて個人の胸像を贈りました。この像はポプラ並木とプラタナスに囲まれた母校の岩見沢農業高等学校の校庭に設置されています。黒龍江省の農民は原さんのことを愛情と尊敬を込めて「洋財神」(ヤンサイシェン、外国から来て懐を豊かにしてくれる神様)と呼ぶそうです。

地域振興として観光と並んで北海道を日本の食糧基地へ、と盛んに言われます。農業分野にも特区を導入し食糧供給の安定化を図ろうとしています。原氏のような人材の育成がなければ所詮、画に描いた餅。

北海道医報寄稿御礼

情報広報部

北海道医師会では、原稿、写真などを頂いた会員に、記念品として図書カードを差し上げております。

今回は、旭川市医師会・梨木 寛先生の作品『ねぐら (丹頂)』です。

近く、平成15年4月1日号から平成16年3月1日号までに寄稿頂いた118名の方々にお送りいたしますので、どうぞご受納ください。

